



開館 85 周年記念特別展 Special Exhibition Commemorating the Nezu Museum's 85th Anniversary

光琳派 国宝「燕子花図」と 尾形光琳のフォロワーたち

The Kōrin School: The *Iris*s and Ogata Kōrin's Followers



こんにち「琳派」と呼ばれる流派は、他の一般的な流派と異なり、師弟関係や血縁ではなく、世代の異なる 3 人の画家、すなわち俵屋宗達（生没年不詳）から尾形光琳（1658～1716）へ、光琳から酒井抱一（1761～1829）へ、いずれも先人に対する憧れによって画風が継承され、形づくられたと説明されます。

しかし琳派の美術は、この 3 人だけで生み出されたわけではありません。宗達は、俵屋を屋号とする工房を率い、また抱一も鈴木其一（1796～1858）をはじめとする優れた弟子を擁しました。

光琳にも、直接あるいは間接に連なるフォロワーたちの存在が知られています。なかでも渡辺始興（1683～1755）は、光琳の弟で陶芸家の乾山（1663～1743）の作品の絵付けを出発点に、やがて光琳の制作をサポートする画技を誇るようになる一方、当代きっての知識人である近衛家熙に仕えて「写生」に基づく新しい絵画への道を切り拓き、18 世紀の美術史に重要な位置を占めます。乾山が、兄との協働でデザイン性に富む陶芸作品を作り出したことも周知の事実です。しかし、銀座役人の子で、やはり光琳の弟子である深江芦舟（1699～1757）、あるいは乾山に学び「光琳三世」とみなされた立林何帛（生没年不詳）になると、その作品に触れる機会は極めて稀です。また、光琳の号である「方祝」の円印のみを捺された作品は、いったい誰が描いたのでしょうか。

本展では、キーパーソンとも言える渡辺始興を中心に、アメリカ・クリーブランド美術館からの里帰り作品もふくめ、知られざる「光琳派」の全貌を展覧し、琳派の歴史に新しい光を当てます。

2026年 4月11日(土)～5月10日(日) 日時指定予約制
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>



～「^{りんば}琳派」ではありません、「^{こうりんは}光琳派」です。～

尾形光琳

おがたこうりん (1658～1716)



国宝
かきつばたずひなぶ おがたこうりん
燕子花図屏風 尾形光琳筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

画家としてのスタートが遅かった光琳が、40代半ばになって最初に到達した芸術的頂点。高品質の群青を多用した豊麗な画趣は、富裕な注文主から依頼された作品であることを示唆する。

渡辺始興

わたなべしこう (1683～1755)

光琳の一番弟子は、同時に近衛家の御用絵師。乾山焼の絵付けも行う。

狩野派の画技を身につけた後、乾山焼の絵付けに携わるとともに光琳に師事、その制作を助けるまでになる。一方、本草学に通じた公家の近衛家熙このえいせいに仕えて動植物の写生に秀で、次世代の円山応挙に影響を与えた。



かきつばたずひなぶ わたなべしこう
燕子花図屏風 渡辺始興筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀
クリーブランド美術館蔵

総金地に燕子花のみを描く発想は明らかに光琳画に基づくが、個々の花の構造を明瞭に描き出すようにする点に、近衛家熙に仕えて写生に長じた始興の個性が表れている。



重要美術品
もくねんしゆろず わたなべしこう
木蓮棕櫚図 渡辺始興筆
2幅 紙本着色
日本・江戸時代 18世紀
文化庁蔵【近衛家伝来】

せきへきず わたなべしこう いとうらんぐう
赤壁図 渡辺始興筆 伊藤蘭嶺賛
1幅 絹本着色
日本・江戸時代 18世紀
個人蔵



右幅は白木蓮に椿、檜葉、左幅には棕櫚と桐を描く。中淡墨を基調とする画面に、控えめながら鮮やかな彩色が映える。黄色い花をつけた棕櫚は家熙の植物図譜『花木真写』にも登場する。

始興ははじめ狩野派に学んだが、伺候した近衛家熙が好んだことから、とくに狩野尚信の画風に接近した。メリハリのあつ濃淡の墨の使用が画面に清新な印象を与えている。

尾形乾山

光琳の弟は陶芸家。晩年は書画に没頭。

おがたけんざん (1663 ~ 1743)

兄の光琳と同じく京都の高級呉服商・雁金屋に生まれる。元禄12年(1699)、京都の乾(北西)の山に窯を築き、進取の気性に富む焼き物を数多く世に送り出す。晩年は江戸に下り、書画の制作に勤しんだ。



渡辺始興の乾山焼への関与が确实視されるようになったのは近年のこと。銕絵によって水墨画に見紛う本格的な山水が描かれた本作は、始興絵付けの可能性がひときわ高い。

さびえざんいず はかくさら おがたけんざん
銕絵山水図八角皿 尾形乾山作

1枚
日本・江戸時代 18世紀
個人蔵



ラフな濃墨で描かれた三つの籠に、白い露を置く桔梗や女郎花、菊、薄が挿される。個々のモチーフの傾きが画面にリズムを刻む。華やかな画面に、自賛の和歌が文人画の趣を添える。

重要文化財

はなごす おがたけんざん
花籠図 尾形乾山筆

1幅 紙本着色
日本・江戸時代 18世紀
福岡市美術館蔵(松永コレクション)

前期 [4月11日(土)~26日(日)]のみ展示

立林何帛

江戸で乾山に学んだ謎多き画家。

たてはやしかげい (生没年不詳)

もとは加賀前田家の医官と伝える(相模鎌倉の人という説もある)。江戸で乾山について学び、また光琳晩年の号である「方祝」の印を用いて、「光琳三世」とみなされた。江戸琳派の形成にも一定の役割を担った。



めでたい松を戴き、ゆかりの梅を背にする天神像。総じて意匠化された琳派風の表現によりながら、画面を充填する大らかな造形が魅力である。自賛の書は、師事した乾山風である。

てんじんず たてはやしかげい
天神図 立林何帛筆

1幅 紙本着色
日本・江戸時代 18世紀
永青文庫蔵

深江芦舟

光琳のもう一人の弟子は、宗達に回帰。

ふかえろしゅう (1699 ~ 1757)

京都銀座の年寄筆頭役であった深江庄左衛門の長男に生まれるが、正徳4年(1714)の銀座手入れにより父は流罪、自身も処罰。幼くして光琳に絵を学び、さらに宗達やその後継者たちの作風を慕った。



つた ほそみちずていぶ ふかえろしゅう
葛の細道図屏風 深江芦舟筆

6曲1隻 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀
クリーブランド美術館蔵

『伊勢物語』第9段、東国へ下る男が、途中の宇津の山で旧知の修行僧に出会う場面を描く。山の色面で金地画面を構成する手法は、光琳を介し、俵屋宗達に遡る。



重要文化財
しきそうかすびはうぶ ふかえ ろしゅう
四季草花図屏風 深江芦舟筆
6曲1隻 紙本着色
日本・江戸時代 18世紀
福田美術館蔵

たらしこみを多用する水墨味の強い画面は、宗達の後継者である喜多川相説の草花図に近い。大胆に湾曲する躑躅^{つづじ}、屏風の折れ目や枠を意識した菊や水仙など、独特の構図感覚も目を引く。

※会期中、前期[4月11日(土)～26日(日)]と後期[4月28日(火)～5月10日(日)]で一部作品の展示替えがございます。

表紙の作品：上/国宝 燕子花図屏風(部分) 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵
下/燕子花図屏風(部分) 渡辺始興筆 日本・江戸時代 18世紀 クリーブランド美術館蔵

講演会 (事前申込制)

「光琳の風について」
講師：仲町啓子氏(実践女子大学名誉教授)
日時：2026年4月12日(日) 午後2時～3時30分
会場：根津美術館 講堂
定員：100名

スライドレクチャー (事前申込制)

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。
日時：2026年4月17日(金)、4月24日(金) いずれも午前11時30分～午後12時15分
5月7日(木) 午後5時30分～6時15分
*3回とも同内容です。
会場：根津美術館 講堂
定員：100名

関連
催事

展示室6 初夏の茶の湯

立夏(5月5日)を迎えると、暦のうえでは夏。さわやかな気候に即して、茶席では道具を夏向きのものへと改め、亭主・客の気分を一新します。

中国・江西省景德鎮の民窯で、天啓年間(1621～27)を中心に、日本向けに生産された古染付。八角の胴部に葡萄と棚が描かれた本作は定番品である。



こそめつけぶどうだなみずさし いはいとくちんよう
古染付葡萄棚水指 景德鎮窯
1口
中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

同時
開催
展

その他の情報

夜間開館

5月5日(火・祝)から
5月10日(日)は
午後7時まで開館。
(入館は閉館30分前まで)



庭園のカキツバタ

作品の鑑賞とともに、カキツバタの咲く庭園の散策もお楽しみください。
(例年4月中旬から5月上旬にかけて開花します。)

※最新状況、追加の催事については、当館ウェブサイトでご案内いたします。

展覧会名 開館 85 周年記念特別展 こうりんは 光琳派 一 国宝「燕子花図」と尾形光琳のフォロワーたち一

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2026年4月11日(土)～5月10日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(最終入館 午後4時30分)
【夜間開館】5月5日(火・祝)～5月10日(日)午後7時まで開館(最終入館 午後6時30分)

休館日 毎週月曜日。ただし5月4日(月・祝)は開館

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1800円(1600円) 学生 1500円(1300円)

- ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券(一般2000円、学生1700円)も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
- ・2026年3月31日[火]午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口(階段)より徒歩8分、
B4 出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3 出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536(代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所/村岡
Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

企画展 はじめての古美術鑑賞 —美術のなかの文字—

2026年5月30日[土]～7月12日[日]

賛や署名をはじめ絵画や工芸作品のなかにあるさまざまな文字に注目し、それらの文字にはどのような役目が託されているのかを考えてみましょう。



左 紅葉流水図
日本・室町時代 14～15世紀
根津美術館蔵 小林中氏寄贈
右：色絵寿字文独楽形鉢 肥前
日本・江戸時代 17～18世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2026.1.)